

竹筥下

中原綾子

除夜の鐘うらまつかしくひひきまぬ代々木
の宮の神壇のうや
み社の木の下園に清らまり少年團の焚
ける篝火

敷きつめしき(のまみ判)玉かとも思ふべの
うやうやけれ

日の下の民衆々としらまりてゆきぬかしりぬ
み社の道し

元日のまをぬけやらぬ空のもと神に^{まろ}つる
いますかすかし

ともし火は^{あて}費にほのかにまらぬきくそソバ
地^{ぬき}の^{しら}禰宜の白衣

母なればまづ祈るらくわか思ひ子ことし
よきは^まほりたまし